

上越 谷川 8月31日(日)  
湯檜曾川ゼニイレ沢

L 白土・菊池・志満(記)

当初の計画は湯檜曾川本谷だったが連日の豪雨で中止となりその転進先として日帰りで水量の少ないこの沢となった。

プロフィール：ゼニイレ沢は一ノ倉沢の対岸にある沢で谷川岳と一ノ倉岳の鞍部からお賽銭を投げると一ノ倉沢のあまりの険しさで湯檜曾川を越えてこの沢に入ってしまう事から「銭入れ沢」と名づけられたという。

土合橋を渡って登山道を40分ほど歩き湯檜曾川の河原に降り立つ。ここからゼニイレ沢を見上げると急斜面のスラブが白毛門に向けて一直線にせりあがっているのが見える。「すっごぉ~い！」あれを登るのかと思うとモチベーションが一気に上昇！しかしその圧巻的なスラブとは対照的に出合は沢を埋めつくすほどガレが積み重なり水の流れもない。そんな出合から30分くらい歩くとガレも終わり標高930mの二俣となる。振り返ると一ノ倉沢が勇敢に聳え立っているのが眺望できる。かっこいい！今朝、一面どんよりとした曇り空が時間経つにつれて雲が切れ青空が広がってきた。シメシメ・・・久しぶりの青空の下での遡行が楽しめるぞ

二俣を右に入ると100mのナメが目の前に広がる。いよいよナメとスラブのコラボが始まる。ナメ200M、ナメ滝そしてまた100Mのナメ。緩斜面でひよいひよいと、ちょっと急な斜面は手をつきながら快適に高度を稼いでいく。登っても登ってもナメナメ。2M、

4Mの小滝が連続したその先には下から眺めた広大なスラブが目の前に現われた。このスラブも快適に登れるが一直線に広がっているので振り返ると高度感があり緊張する。しかし長~い！ここも登っても登ってもスラブは終わらなくいつもにはない足のダルさを感じてきた「スラブ疲労」と言うものか・・・やがて草混じりのスラブとなりこれを越えると両側が狭まってきた。標高1300mあたりの5m滝、右岸を簡単に歩いて抜けられるのに白土さんはザイルを出し直登する少しカブリ気味で悪戦苦闘。結果し脇にそれたが「物好きなチャレンジャー」と呼ぼう。こんな仲間がいると楽しさ倍増でgood！だね。いよいよ源頭の雰囲気が漂ってきた1450mあたりで水が涸れ、その先は岩壁に遮られながらプッシュと岩混りの所を登り少しの藪をかき分けると、ひょっこり登山道に出た。

終わってみたらあっけなかったけれどナメとスラブは標高差400m長さ約800mにも及びなかなか楽しめた沢であった。



土合橋 P 6:45      ゼニイレ沢出合 7:20  
-7:45      930m 二俣 8:11      稜線  
11:30-11:55      土合橋 P 13:56

【地図】 1/25000 茂倉岳